



| | |
|------------|---|
| Title | 実業関係洋書の官訳出版 明治前期実業教育施策史研究附説 (2) |
| Author(s) | 内山, 克己 |
| Citation | 長崎大学教育学部教育科学研究報告, 18, pp.1-10; 1971 |
| Issue Date | 1971 |
| URL | http://hdl.handle.net/10069/31059 |
| Right | |

This document is downloaded at: 2019-04-26T10:06:35Z

実業関係洋書の官訳出版

——明治前期実業教育施策史研究附説 (2)——

内 山 克 己

(1)

明治初年、初期に刊行された実業関係図書は、多くは西洋書の訳書乃至抄訳或は解説書の類である。かかる翻訳的な事業は実業書と云うよりも一般に、幕末より既に幕府当局によっても企てられてはいた。それが維新後は政府の文明開化政策、ここでは富国殖産のための勸業政策に副う上からも斯種図書の訳書、抄訳書乃至解説書が官民両側から刊行されている。特に早くも福沢諭吉の西洋事情(初篇—慶応2年 外篇—同前3年刊)や西洋旅案内(慶応3年刊)、神田孝平重訳の経済小学(慶応3年新影—1時西洋経済小学と冠し明治1年刊)、箕作麟詳、緒方儀一訳の経済原論(明治2年刊)、小幡篤次郎訳述の生産道案内(明治3年2月官許、5月新刻—10年経済入門として再版)、福地源一郎訳の英国商法(明治3年刊)など外国事情の解説や訳書が個人名によって出版されている。然し政府は斯種の西洋学の導入を独り民間人に打委せるのでなく、進んで自からも之が刊行も行った。それには先づ、「…彼ノ農学ヲ訳スル如キ此書(註・官板泰西農学) 実ニ嚆矢タレハ……」(註1)と述べているように、農書訳では嚆矢と云われるものであるが、夫れはまた官板訳としては他種図書に対しても云えることであるが、明治3～4年の大学南校～文部省刊「^{官板}泰西農学」(中助教緒方儀一訳 明治3年庚午 大学南校刊—原本 英農用離質化学家ゾーマス・シ・フレッチェル著—1867年版)がある。尤も先の箕作・緒方訳の経済原論の如き、官長の命を受けて訳すとあるから個人名であっても実質的には官板に準ずるものであろう。

(2)

さて先づ農書に関して云えば、云うまでもなく政府の洋学導入は勸業施策の中心機関をなした勸業寮の「勸業報告」(7年12月創刊 9年11月第16号以下不詳)の如く、外国農業の紹介記事に満たされているところにも現われている。また同じく同寮刊の後藤達三訳「斯氏問答書」(8年刊 カテチスム・オフ・プラチカール・アグリカルチュラル=実地農業問答 賢理斯的墳—ヘンテリステフェン著)や、岡田好樹訳「斯氏農書」(8・9年刊 19～20年訂正版)、織田完之訳「茶務余載」(10年刊 胡来枢著 勸農局)、岡田好樹訳「英国農業編」(11年刊 英ジョン・ウキルソン著)、多田元吉編乃至訳註の「紅茶製法」や「紅茶説」(両書とも11年刊 コロネル・モネー著)など、その後の幾つかの例(附録I「刊行農書例—覧」参照)は同様の線に沿う同寮乃至勸農局或は農務局刊のものである。尤も民間では早くも明治3年版の「農家備要」前編(河野禎造—剛著)や「雀糞論説」(若山三毛證訳述)があるが、何れも西洋科学書なり西洋農学書に基いたものか或は訳述である。殊に津田仙が著した「農業三事」(7年刊)の如きは、当時公刊忽ちにして数万部を売り尽したとも云われているが、この書にしても6年澳国維納府万国大博覧会開設の際3等事務官心得として副総裁佐野常

民に隨行渡遣せられし節、彼国の農学士ダニールホーイブリンカ但以理荷衣伯連發明の3大法アトモスヒーリックパイプ(氣筒理伏法・イングリネー樹枝偃曲法・アルテフィシアルヘコンデーション禾花媒助法)によるものとされている。そして、その間或はその後に於て勸農局などの政府機関や個人による図書が、日本農書の再刻は別として、かかる西洋農学術の影響のもとに訳書、訳述書、編書、著書、教科書類として刊行されている(註2)。然し何れにせよ、我国の伝統的な農学は勿論のこと、特に西洋農学移入の推進機関は勸業(農)寮を始めとする政府機関であった。殊に先の岡田好樹訳の勸業寮版「斯氏農書」の如きは、「抑く此篇ハ終始其本旨実地ノ農業ニ志ス生徒ノ為メ的確ノ指南トスルニ在ルヲ以テ……」(註3)と序(原書)に述べているように、従ってまた「此篇ハ農業生徒ノ為メ其知識ヲ開暢スルヲ趣旨トス故ニ果シテ其教場ニ益アルヘシ此目途ヲ以テ篇中分チテ四部トス即チ第一部ハ全篇ノ大意ヲ説キ農業生徒預メ農事ニ切要ナル諸学科ニ通達ス可キヲ諭示シ旁ヲ農事ヲ学フノ良法ヲ説ク且第二部ハ実務ヲ論シ……」(説4)と本書(原書)の目的を示している。こうした目的と内容をもった斯氏農書訳は、勸業寮として逸早く採り上げられ其内容が農業初学者のための教育書であり、且つ農業教育の目標、内容、方法などを含んだ指導書でもあった。例すれば、次のような内容をもっている。

実地農業ヲ通曉スル最良法(第1~11章)

農業習学ノ困難及ヒ之ニ耐忍スルノ方便(第12~23章)

農業ニ教科アル事及ヒ其最良法ヲ択ム事(訂正版「19~20年」第24~43章)

農業ヲ施行スル人員ノ事(同前訂正版第44~56章)

農業ニ応用スル学科ノ事(同前第57~384章)

生徒ノ農業ヲ学フニ適切ナル教場ノ事(同前第385~410章)

それで、この当初版は明治19~20年に至っても「……巻帙浩澣ニシテ(註・全3764章)緋閱携帶ニ便ナラス而シテ其価亦從ッテ貴シ或ハ比ノ書ノ必要ヲ知ル者アリト雖恐ラクハ農家子弟輩ノ容易ニ之ヲ購求スル能ハサラン事ヲ……」として、「務メテ其価ヲ廉ナラシム庶クハ比書ヲ讀ミテ之ヲ実地ニ応用スル者日々ニ倍々多ク以テ我農事ノ改良進歩ニ裨益アラシム事ヲ」(註5)を願って版を重ね正したところに、施策上殊のほか注目さるべき意義をもつものである。

次に商業経済関係では、頭初に掲げた福沢などの解説書や訳書、訳述書のほか出版書のうち、明治前期では訳書類が圧倒的に多いのが目立つ(註6)。うち小幡篤次郎訳「英氏経済論」(4年刊 フランクス英蘭志須英蘭土著 原名ポルチカルエコノミー1870年版)、福沢諭吉訳の「帳合之法」(6年刊 原著ブライヤント・ストラットン共著「学校用ブックキーピング=1871年版)、殊に永田健助訳述の「宝氏経済学」(10年刊 フハゼット宝節徳氏夫人ミッリセント・ガルレット編述 原名ポリチカル、エコノミー、ピギンニイルス=経済小学 1876年版)は広く長く学校教科書として利用された訳書である(20年改訳増補)。その訳書でない出版書にしる、殊に10年頃から多く版された簿記書類は勿論のこと教科用書類は(註7)、西洋商学の解説書と云ってよい内容のものである。こうした明治初年の諸訳書のなかで、官版としては早くも4年に福地源一郎訳の「会社弁」(ウエーランド等著 大蔵省版)や浜沢栄一述の「立会略則」(大蔵省版)があり、5年には立嘉度訳「合衆国収税法」(大蔵省版)があり、その間文部省刊を除いては9~11年に至って 彼理氏著理財原論一経済学(史官本局一川本清一訳述)と10年の大蔵省訳版の「銀行大意」や「経済要説」などがある。ところで、この商業経済関係図書はそれ

らの訳書は別として、内外図書を合して一般に農業書に比較すると出版件数は少ないように見える。これは農書が農書編纂という政府による企画努力があった上に、商業経済面は新時代に当面しての新しい領域であったことによるであろう。従って訳書や解説書が多く見られることになる。

ところが、工業関係訳書に至っては皆無に近いと云ってよい。云うまでもなく、維新政府は外人技術者を多数雇傭することによって技術面の実際導入を図ったが、図書による啓蒙は余り行われていない。それは極端に低位な工業水準にあった当時においては、之を多少とも文字の上で理解し得ない段階であったことによるであろう。従って当時においては寧ろ物理、化学といった基礎的な知識の啓培が先決であった。実際的にも、当時の一般科学書のなかでも物理、化学、博物などの学は殊に工業技術の基礎と考えられていたようである。「……抑理化博物ノ民主日用ニ大益アル農商百工執ル所ノ業一トシテ此学ニ関渉セサル者アラス……」(註8)、「夫理化二学ハ……百般ノ學術技芸此学ヲ基礎トセサルナシ……」(註9)、「同じく「……殊ニ工芸ニ切要ナリトスル所ハ其(註、知学)一分科タル理化ノ学ニ外ナラス凡百ノ工術概ネ此二学ニ由テ成立進歩……」(註10)、「……夫レ植物学ヲ修ムルノ本旨タルヤ第一ハ……第二ハ其学習セル所ヲ事物ニ適用スルニアリ即物理化学ハ百工製作ニ適用シ金石植物ノ学ハ農鋌ノ業ニ主要ナルノ類是レナリ……」(註11)と云った類である。事実としても9年7月設置の新潟学校百工化学部は勿論(註12)、之よりさき百般の學術技芸此二学(註・理化学)を基礎とし資とせざるなしとの趣旨で早くも4年7月開設された金沢県理化学学校(註13)、或は之は実現を見なかったが「理化ノ學術ヲ講究シ百工化学ヲ実地ニ試験シ以テ物産ヲ繁殖」(教則第1条)せんの目的で計画された13年の京都府化学学校などよき例である(註14)。如上のような点からしても、斯種の基礎的な科学書が民間人なり文部省などによって編訳され学校教科書として使用され(註15)、工業技術の基礎的啓培に資したと見られる。尤も、工学の応用的な知識や工夫を教える啓蒙的な大衆書乃至専門書が全然なかったわけではない。例えば農商工経済論「工業篇」(永田健助訳 3年刊)、電気論(中神保著 4年刊)、宮崎柳条纂輯「西洋百工新書」前篇(4年刊)及び後篇(5年刊)、同前外篇1, 2, 3(6年7月新編)同じく同人纂輯の「百工器械新書」巻一, 二(7年刊)や13年の工業新書、遅れてこの工業新書のほか電信小史(藤岡市助著 15年)、農商工小学入門巻二「工業編」(那須純一郎著 15年12月4日免許)、小学職業予習第二冊「工業之部」(西村義民編纂 15年12月27日免許)、工業小学(中川重麿纂輯 15年)、雑誌としては最初の電気学会雑誌(21年6月)などがある。そして当然のことながら、此期の科学書は勿論のこと啓蒙的な工業大衆書は何れも西洋科学の導入書である。「夫レ泰西ノ学たるや一に浮文浮華の事なく皆世道に裨益ある事論を待ず、而して理化二学に於ては素より其魁たる者也今や賢哲西書を翻訳し亦た遠く教師を招待して以て此学を講明し造化の妙をして普く世人に知らしめ以て知識を拓めんとす……」(註16)「……夫理化二学ハ衆芸百工の原にして苟も工匠たる者此学に據らざれば鍼盤なくして海を航り権衡なくして錙鉄を較に等しく……」(註17)とか、「今や国家隆盛凡百技芸具備セサル無シ随テ訳書ノ如キモ其長スル所ヲ修メ百科亦闕如ナシト難モ惟リ器械書ノ如キハ未ダ我ニ得ル者鮮シ恒ニ以テ遺憾トス識者曰ク富源ノ策ハ理化学三学ニ在ト依テ自ラ揣ラズ英国人ホウエル氏ノ源書ニテ同国人カイゼヨセフ氏支那上海ニ於テ口訳セシ重学ト名ル書ヲ本トシ其他……纂輯シ題シテ百工機械新書ト名ケ以テ初学ニ便セント欲ス……」(註

18) などとあるように西洋学の導入を示し、理化学等の基礎学及びその応用学の要を述べているが如くである。また後に掲げるように、文部省は百科全書と冠した各般の訳書、うち応用科学的な訳書や前掲の農工商経済論「工業編」、工芸志科(博物局) そのほか教科用を兼ねての応用科学的な、或は初学者のための一般科学訳書を編刊して啓蒙的な役割を演じた。民間個人としても、教科用書として利用せられた物理、化学、動植物、数学などの科学書の訳著は勿論、純然たる工業教科用図書として前掲の那須純一郎著「農工商小学入門 卷二 工業編」や西村義民編の「^{小学}職業予習 工業之部」が見出される。後者は就中「……我邦維新以来世態一変シ凡百ノ器具皆給ヲ西国ニ仰ガザルモノナク……蓋シ此ノ如キニ至リシハ時勢ノ變遷ニ際シ俄然彼邦ノ器具ヲ採テ以テ我カ需用ニ供シタルニ原因スト難モ亦我邦工匠ノ俗タル手術ノ精術ヲ琢磨スル者少カラサルモ工学ニ研究スル者甚タ多カラス……冀クハ小学子弟諸君ヨ徒ラニ旧慣ヲ墨守シテ手術上ノ精熟ヲノミ琢磨セスシテ須ラク學術上ノ精熟ヲ切望セラレン事ヲ」(註19)との趣旨で刊されている。なお前書の内容を附加すると、総説、製茶工、製蠟工、漆器工、漉紙工、搾油工、砂糖工、靛藍工、紅莖工、規矩用法と云うように実際的にして身近かなものを以て構成している(註20)。

(3)

ところで問題は実業関係の教育書である。既に掲げたもののなかにも教科用書として広く利用された訳書もあったが、国が積極的に啓発を行う姿勢を示すものは他省版よりも文部省版としてでなければならぬ。一般に明治初年における小・中学校一般教科書の大方は翻訳教科書(及び少数の翻案教科書)で、所謂翻訳教科書時代(註21)と呼ばれるぐらいであるが、勿論実業関係書は少ない。それでも曾って取扱ったように(註22)、文部省はその文部省雑誌、教育雑誌などを通して西洋の実業教育事情や論説の翻訳紹介に力めたが、他方自らも他に魁けて訳書を刊し或は前述のように百科全書と冠して、うち農工商の書を訳して教科用に資した(註・百科全書とは *Information for the people by willem chamble & Robert chamble* の訳書名)。試みに、初期における文部省出版の実業関係訳書を掲げると次のようなものが見られる(註23)。

商業経済関係

経済要旨(西村茂樹訳 原著不詳 卷上・下全13節 明治7年刊)、統計学一「国勢略論」(仏モロード・ジョンネ著 箕作麟祥訳 7年刊 下篇 11年刊)、泰西経済新論(ゼームス・イ・ゾロルド・ローゼルス著 高橋達郎訳 改正増補第2版—1869年 原著名エ・マニュエル・ヨフ・ポリチカル・イコノミー 7年刊 卷3~6は9年刊 卷7, 8は11年刊)・^{馬耳}蘇氏記簿法(シー・シー・マルシュ原著 小林儀秀訳 8年刊)・^{馬耳}蘇氏複式記簿法(同前訳 9年刊)

百科全書本には経済論(堀越愛国訳 7年刊)、商業篇(前田利器訳 7年刊 のち「貿易及貨幣銀行」と改題)、百工儉約訓(高橋達郎訳 9年刊)、人口救窮及保険(永田健介訳 10年刊)、水運(永井久一郎訳 10年刊)、陸運(塚本克巳訳 13年刊)

農業関係

官板泰西農学(フレッチェル著 緒方儀一訳 大学南校 3年刊)、同前附録(同前 文部省4年刊)、戒氏農業化学(編輯局訳 17年刊)、農理学初歩(同前訳 17年刊)

百科全書として漁獵篇(錦織精之進訳 7年刊), 豚兔食用鳥籠鳥(永井久一郎訳 9年刊), 果園(柴田承桂訳 9年), 養樹篇(坪井為春訳 9年), 蜜蜂篇(坪井為春訳 9年), 牛及採乳方(河村重固訳 9年), 馬(錦織精之進訳 10年), 釣魚(同前訳 10年), 花園(大井鎌吉訳 11年), 菜園(木村一步訳 11年), 羊篇(吹田鯛夫訳 15年—牧羊篇 勝皇仙之助訳), 農学(松浦謙吉訳 16年)

工業関係

電気及磁器学(文部省訳 14年)

百科全書として(一般基礎学は除く), ^{百工}化学篇(牧山耕平訳 6年), 給水浴渠掘渠(河村重固訳 9年), 金類及練金術(錦織精之進訳 9年), 温室通風点光(木村一步訳 10年), 織工篇(梅浦精一訳 10年), 有要金石編(松田武一郎訳 10年), 蒸汽篇(小林義直訳 10年), 土工術(大島貞益訳 10年), 重学(後藤達三訳 11年), 陶器工篇(錦織精之進 11年), 印刷術及石版術(大槻文彦訳 13年), 建築術(関藤成緒訳 15年)

従って, 文部省の西洋実業学移入策は一面先の機関紙「教育雑誌」等による翻訳紹介のほか, 主としてこの百科全書に力をいれていることになる。そして, その後の実業関係訳書として「職業教育論」(菊池大麓訳 17年5月刊 文部省編輯局 原書名 J. Scot, Russel; Systematic technical education for the English people), 「芸芸教育ニ係ル英国調査委員報告」(原書名 H.H.D. Samuelson; Report of the Royal commission on the technical instruction 1884—18年12月第1報告 文部省報告局, 19年1月—22年第2報告 文部大臣官房訳 同省総務局等)がある。このほか, 18年には特に英国で商工学校及びその生徒の商工業教育のために著わしたという「商業沿革史」(原書名 The growth and Vicissitudes of commerce by John Yeats 河上謹一訳 文部省編輯局), 同じく「商業工芸史」(John Yeats; The Technical History of commerce 大島貞益訳), 「商業博物史」(John Yeats; National history and materials of commerce 瓜生寅訳), それに19年の「勸業理財学」(A Marshall & M.P. Marshall; Economics of industry 1881 高橋是清訳)などがある。

うち菊池大麓訳の「職業教育論」は, 「英国人民ノ職業教育ノ制度ヲ組織スル方法手段及学制」(第18編)ほか外国職業教育の紹介編も含んで前後総25編からなり, 職業教育全般にわたる訳書としては最初唯一のものである(註, 24)。「技術教育ニ係ル英国調査委員報告」は, 英国議会在が6人の委員を欧米に渡遣し欧米各国(仏・日耳曼・丁株・澳・和・白耳義・愛爾蘭, 米・加拿陀等々)についての調査報告書である。「朕惟フニ今日外邦ノ百工芸ヲ觀察シテ之ヲ自国ノ技芸ニ較量シ並ニ其内外製造工芸ニ及フ教育ノ効果ヲ探求スル事ハ頗ル国家ノ要務ナリト故ニ今此教育ニ関スル事業ヲ調査センカ為メ愛ニ……」(註25)も委員を選定して成った膨大な内容のものである。因みにこの報告訳書の発行部数は当初13,000部と報告され, 同年度の文部省年報, 同附録合計6,400部(註26)に比して弘報宣伝の意図が明白である。かくて此頃以降になると, 他の斯種民間出版書(註27)と相俟って実業教育に関心がもたれ始めていることを示すようである。要之, 明治維新政府の勸業施策は外人多数の技術者や所謂御雇教師の雇傭, 或は邦人各種の航洋留学出張などを行ったが, これらと歩調を合わせて, なかでも文部省の勸業的翻訳図書の刊行紹介は顕著ではないが大凡そ年次的に政府の施策に副うて続けられたと見られる。

註

- 1 官板泰西農学 初篇 凡例 P.1
- 2 本註「附録Ⅰ」
- 3 斯氏農書（明治8年版）卷上一 P.2～3（原序）
- 4 同前 P.5
- 5 訂正斯氏農書（明治19年11月刊 農商務省農務局）小言 P.1～2
- 6 主として三橋猛雄篇 經濟文献年表（明治文化全集 第9卷所収）
- 7 本註「附録Ⅱ」
- 8 文部省第5年報 第1冊 P.174（岐阜県学事年報）
- 9 石川県史料 明治17年之部 金沢県理化学校開設趣旨（明治前期教育史料集成所収）
- 10 理化土曜集談 第2号（10.11.17）P.14
- 11 東京教育会雑誌 第6号（13.8.28）信原謙造 “初等植物学教授論”
- 12 新潟県第283号甲達—9.7.12 “新潟学校ノ儀ハ……教科ヲ改正シテ百工化学トナシ百般ノ物品ヲ精製スル術業ヲ教授シ工業発達ノ基礎ヲ立テ……”
新潟学校規則（9.9.1ヨリ施行）第1章第1条 “……新潟学校ハ百工化学ヲ教授スルヲ目的トス 諸般ノ工職物品製造等……”（規則改正県第17号丙達—11.7.4 化学教場 “第1条 本場ハ百工化学ヲ教授スル為ニ設ケタル所ニシテ諸般ノ工職物品製造等……”） 百工化学部廃止（県甲第139号布達—13.7.16）
- 13 石川県史料75 石川県誌稿 政治部学校之部所収 明治前期教育史料集成（雄松堂編）
- 14 京都府教育史 上（昭和15年刊）
文部省第9年報附録 P.81
文部省日誌（明治13年）第22号 P.16～22
京都府伺（13.10.欠日）“化学ハ諸工業諸製煉ノ基礎ニシテ人生不可欠ノ者ナリ……舎密舎内饗舎ヲ化学学校ニ併用シ規則別冊ノ通創定致度此段相伺候也”
- 15 当時刊せられた一般科学教科書のうち文部省版教科用書が、それも殊に「物理階梯」（片山淳吉訳 5年10月刊 改正増補版8年及9年2月）、小学物理書（内田成道訳 7年4月刊）、小学化学書（市川盛三郎訳 7年10月刊）、牙氏初学須知（田中耕造訳 11巻15冊—8年8月～9年9月刊）、具氏博物学（須川賢久訳 10年8月刊）などが比較的広く利用されたらしい。なお、如上の文部省刊のほか教科用書として同じく比較的広く利用された個人訳書に、学校用物理書（山岡謙介訳 12年1月刊）、物理全誌（宇田川準一訳 9年10月完刊 改正12年3月）、土都華氏物理学（川本清一訳述 12年1月刊—東京大学理学部）、化学訓蒙（石黒忠恵訳 4年10月刊—大学東校）その他が見られる（日本科学史学会編 日本科学技術史大系教育Ⅰ所収 資料2—5, 14, 15・3—9, 10・6—2～5, 7, 8・12—1等参照）
- 16 宮崎柳條纂輯 西洋百工新書 前篇（4年11月刊） 百工新書跋
- 17 同前 外篇（6年7月新編） P.3（百工外篇序例）
- 18 宮崎柳條纂輯 百工機械新書 卷之壹（7年11月刊） 例言 P.1
- 19 西村義民編纂 小学職業豫習—工業之部（11.12.27免許） P.1～2（総論）
- 20 同上 同頁
- 21 尾形祐康 西洋教育移入の方途 P.158
- 22 内山克巳 文部省「教育雑誌」等による啓発弘報—長崎大学教育科学研究報告 第15号
- 23 百科全書（丸善商社—丸家善七出版 明治17年刊） 上・中・下
福鎌達夫 明治初期百科全書の研究（第2部 本論「文部省百科全書」訳述考）
三橋猛雄編 經濟文献表（明治文化全集第9卷所収）

筆者蔵書

- 24 東京大学教育学部図書館蔵
 25 第1報告 P.1 (報告書 東京教育大学図書館蔵)
 26 文部省第14年報 P.13 (処務之部)
 27 10年代末期から20年頃まで次のようなものが出版されている。

法蘭西近來職工教育の実況 (高橋達郎訳 18年刊), 日本工業教育論 (平賀義美 20年), 日本農業教育論 (宮崎道正 20年), 日本商業教育論 (河上謹一 20年), 通俗日本農業教育論 (高橋義雄 20年), 手工科教授新編 (浅井得次郎編 20年), 手芸教育論 (峯是三郎抄訳 22年刊 原書名 Arthur, McArthur; Education in its relation to manual industry)

その他, 通俗的な大衆読物的なものとして当世商人気質 (櫻庭篁村 19年), 政海官員気質 (田中政一郎 19年), 未来之商人 (曾田愛三郎 20年), 商売の秘訣 (佐久間剛蔵 20年), 当世会社気質 (奥村征兮 21年), 剛膽之商人 (改田彦三 21年), 経済金儲の秘訣 (福関弘賢訳 21年), 商工必携金庫の鍵 (小野松塘 21年), 商売人 (富田源太郎 21年), 商売の骨 (佐久間剛蔵 21年), 当世職人氣質 (霞柳散人 22年), 家庭商業学校 (徳永金三郎 23年) など見かけられる。

附録Ⅰ 刊行農書例一覽(筆者編)

(官庁年報統計類, 法規類, 原著及著者名等略)

- 明治3年 農家備要 (前編, 河野禎造一剛), 雀糞論説 (若山三毛證訳述), 官板泰西農学 (緒方儀一訳 大学兩校), 農工商經濟論農業篇 (永田建助訳)
 明治4年 農政本論 (佐藤信淵) 刻, 官板泰西農学附録 (緒方儀一訳 文部省), 養豚略説 (中神保鈔訳), 牧牛説 (杉山安親訳)
 明治5年 十字号養豚例 (佐藤元庵述), 農政教戒六箇條 (佐藤信淵) 刻, 牛乳考及屠畜考 (近藤芳樹), 蚕種生絲説 (大蔵省), 養蚕新論 (田島弥平一邸寧)
 明治6年 牧牛説 (静岡学人, 杉山安親訳), 西洋農家訓 (神田豊訳), 勸農新曆 (島村泰), 培養秘録 (佐藤信季) 刻, 同前 (佐藤玄明口述, 佐藤信淵訳) 刻, 農家必携耕作新化学 (志賀雷山訳), 山蚕養法 (佐伯義門編), 養蚕手引草 (芳川頭正), 養蚕撮要補 (玉井市郎治述), 養蚕事実 (佐見義徹), 富国捷徑 (福住正兄), 製茶餘話 (佐々井半十郎), 製茶新説 (増田充績編述), 西洋菓樹栽培法, 西洋蔬菜栽培法 (開拓使)
 明治7年 農学新論 (菊野々七郎訳), 農業三事 (津田仙), 農学提要 (杉山親, 吉見義次摘訳), 牛病新書 (相原学而訳), 茶園閑話 (竹内信英), 草木六部耕種法 (佐藤信淵) 刻, 土着提要 (近藤圭造, 神田豊訳), 百科全書漁獵篇 (錦織精之進訳 文部省), 農学住来 (総生寛), 勸農初学 (島次三郎一嶋桂潭)
 明治8年 農学簡明 (志賀雷山訳), 葡萄樹栽培新方 (河出良三訳述), 耕作日記 (県信緝), 勸農雜話 (織田完之外), 土性辨 (佐藤信景著 佐藤信淵増補) 刻, 罔入薔薇栽培法 (安井真八郎訳), 養蚕全書 (石幡吉三郎 開拓使)
 明治9年 泰西農業勸奨法 (古賀保高筆記一澳シーボルト講義), 斯氏農書 (岡田好樹訳 19~20年訂正訳), 甜菜砂糖製造法 (吉田五十穂訳 内務省), 稲麦煤助法 (三沼乾実), 農学教授書 (島村泰), 斯氏農書問答 (後藤達三訳), 旧典田制編 (横山由清等撰), 田制沿革史 (天野御民), 草木栽培法 (藤井徹), 日本地誌略物産解 (工方幸勝), 農家必携 (総生寛編), 種樹園法 (佐藤信

- 淵)刻,堤防溝洫志(佐藤信淵)刻,漁村維持法(佐藤信季著,同信淵校)刻,百科養樹篇(坪井為春記),百科密蜂篇(坪井為春記),百科果園篇(柴田承桂記),百科牛及採乳方(河村重固記),百科豚豕食肉鳥籠鳥(永井久一郎記),勸農雜話(織田完之)
- 明治10年 勸農田畠年中行事(佐藤信淵 島邨泰補註)刻,茶務彙載(胡乘枢 織田完之記 勸農局),草木移植心得,日本製品図説(高鋭一 勸農局),農政垂統紀(織田完之など 勸農寮編),静里園実験絵入農業新話(藤井徹),藍製法(藤井徹),測南便蒙(小林新兵衛),葡萄培養法摘要(小沢善平),亜麻効用略説(紙幣局),山林新説(片山直人),杞柳栽培製造法(勸農局),養蚕必携(10年?立花道貫記),茶業必要(上林熊次郎,江口高廉編述),百科馬(錦織精之進記)
- 明治11年 藥用動物篇(松原新之助),栽培經濟論初編(佐田介石撰),桑苗簾伏方法(船津伝次平),百科花園(大井鎌吉記 文部省),山林新説二編(片山直人),人工孵卵図解(勸農局),紅茶説(多田元吉記註),養魚法一覽(金田焯逸 勸農局),英國農業篇(岡田好樹記),小学農学路志留遍(堤正勝—9月13日版權免許),紅茶製法纂要(多田元吉編 勸農局),牛病通論(勸農局),開牧五年紀事(広沢安任),草木栽培法第五~八編(藤井徹),小学農業彙蒙(久保田梁山),耕作野菜之種蒔(長岡道謙),百科園篇(木村一步記 文部省),農業要覽(勸農局編)
- 明治12年 砂糖略説(勸農局),加氏葡萄栽培書(大久保学而記),統養蚕新論(田島弥平—郎寧),小学農用化学(熊谷直孝記),蟲類名彙(勸農局),興農或問(森下好清編輯),梅花集(伊藤小右衛門),農耕牛疫相療図解(福井数右衛門),牧畜必携(荒井宗誌記),明治農業往来(本多芳雄編),歴日種まき鑑(樋口弥門編),興産教授農学初歩(永峯秀樹纂記),小学農家読本(松本英忠),農科小学入門(松本英忠),小学農科初歩(同前),小学農家読本字引(泰伊三郎編),小学農課書(尾崎行雄纂修),農家小学(田中正幅編),小学農業読本(柘政成),農家小学入門(柳沢武運編),小学読本農業初歩(奥田栄世編),小学農業書(塚原苔園),小学農業書(坪井仙太郎纂輯),勸業順序(大伴兼武編)
- 明治13年 農家矩(織田完之),小学農学入門(岡本監輔纂),農学読本(爾師応),小学農業読本(福井孝治編纂),農業階梯(吉野三省編輯),家畜食物論(村上要信)
- 明治14年 勸農新書(林遠理 版權免許十年・13年),国家挽回論初編(藤田一郎),經濟問答新誌(佐田介石),水産彙考(織田完之),広益農工全書(宮崎柳條編),獸医全書一馬之部(坪井信良記 勸農局),薩隅畑草録(青江秀),牧羊手引草(岩山敬義 勸農局),甲州葡萄栽培法(福羽逸人 勸農局),勸農・農事要覽(東京府勸業課編),舶來穀菜目録,舶來穀菜栽培略表(農務局),害蟲図解説(勸農局),独乙農務觀察記—水産部(松原新之助 勸農局),樹林保護要領・樹林学講義(山林局記),農事主訣(寺師宗徳記),牧畜叢談(村上要信,古谷雄吉),農業新書(津田仙記),初学農業化学(十文字信介編),農業自得(田村仁左衛門),增小学農業書上(塚原苔一郎刪訂),小学勸農新編(岡田知平),農務小学(石平吉孝),下等農学教授書(太田車郎編輯),小学農家読本(中西清編輯),小学農事初歩(本多成允編),校訓小学農業書(塚原苔園),農家小学読本附氣象問答初編(中川重麗纂輯),動物小学(松本駒次郎記),奥羽小学勸農新編(岡田知平),小学農学啓蒙前編(十文字信介編),農学啓蒙(田中芳男),小学山林書(飯島半十郎),欽定授時通考(勸農局)刻,初学山林書(飯島半十郎),致富小記(佐藤信淵)刻,農業往来読本(長崎県師範学校編輯 3月新編)
- 明治15年 家畜伝染病書(米国政府刊 農務局記),牧場略記(河井輯一),葡萄栽培新書(桂二郎),生絲検査法實際記事(館三郎),独乙農務觀察記—農学部(松原新之助),伊太利瓜哇栽培法(農務局記),農業小学(片山平三郎),小学農業捷徑(關澄蔵—19年増補改正),水産小学(河原田盛美 本年版權免許),百科羊篇(吹田鯛六記 文部省),農学読本追補(爾師応),小学科用農家必携

- (石黒操平編述), 初等農業書(志賀雷山編), 農学初歩(志賀雷山), 農工商小学入門—農業編(那須純一郎), 農業入門(深津頭)
- 明治16年 ^{ヒギョウ} 費氏監録(農務局訳), 養蚕法(佐藤庄五郎), ^{シヨソコルチス} 哥氏田圃蟲害(鳴門義民訳), 勸農俚語集(近江掛川 無尽蔵社), 栽桑実験録・栽桑生理問答(農務局), 麻事改良説(吉田建作), 製絲家必携(永井保興), ^{大家}勸農軌範(斎藤健治編纂), 採虫指南(曲直瀬愛), 森林小学(今津厚白), 小学農書(志賀雷山編), ^{百科全書} 農学(松浦謙吉訳 文部省), ^小職業予習—農業之部(西村義民編纂)
- 明治17年 ^{勸農叢書} 百姓伝記, 動植物採集, 標本製作法(岩川友太郎), 万国産業彙聞(菊池広治), 農学(玉利喜造訳), ^{勸農叢書} 養蚕絹篩(成田忠有一重兵衛), 通俗農家必携(関澄蔵訳), ^普布利持隣大王農政要略(和田維四郎訳), 日本樹木要類(今川東纂輯), 里芋栽培法(船津伝次平), 戎氏農業化学(文部省編輯局訳), 米國植綿書(藁品槍太郎訳 農務局), 舶来果樹要覧(大日本農会編), 養蚕生理篇附実験之記(工藤喜六編纂), 農理学初歩(文部省編輯局訳), 水産政務計画図表解説, 農政計画図表解説(農商務省)
- 明治18年 ^{勸農叢書} 農家心得草(大蔵永常) 刻, 農業随録(高橋正作), 蚕の蛆(佐々木忠二郎), 牧畜考(太田幸吉), 蚕事摘要(佐々木長淳調 宮内省), ^{独案内} 養蚕実験録(松崎太郎), 補饑新書(東條琴台), 地主安住論(松崎信), 報徳記(高田高慶 ^{大日本農会 農商務省}), 奢是吾敵論(井上毅訳), 苞蟲図解・牧畜全書(押川則吉訳), 小学農業論(山田修一編輯), 農業小学(山口書輔)
- 明治19年 ^{勸農叢書} 田圃驅虫実験録(梅原寛重), 新撰農業書(中根寿), ^{訂正} 農業初歩(黒宮武雄, 中根寿), ^{勸農叢書} 農場化学(森要太郎訳), ^{勸農叢書} 耕稼春秋(土屋又三郎), ^{勸農叢書} 肥料篇(志賀雷山訳), ^{勸農叢書} 備考余録(赤城広敬編), ^{勸農叢書} 救荒便覧(遠藤通), ^{勸農叢書} 再種方(大蔵永常), 舶来穀菜要覧(竹中卓郎), 勸業新書(岡本監輔纂), 養蚕新説(佐藤源之助), 農用家畜論(文部省), 農業経済学(関澄蔵, 平場定二郎訳), 農家年中行事(梅原寛重編), ^{救荒済生} 苧苧栽培調理法(奈良忠二), ^小 農業経済法(山口書輔), ^小 農業教課書(関文二 早川鉄治), ^{増補改正} 小学農業捷徑(関澄蔵 15年原刊, 19年版権免許)
- 備考 主として国立教育研究所蔵本, 農林省農業総合研究所蔵本, 全国農学校長協会編「日本農業教育史」—明治初年の農事教科書並参考書一覧, 筆者蔵本などで編成した。

附録Ⅱ

刊行簿記及教科用商業書例一覧(筆者編)

(百科全書を除く, 訳書は原著者書名略)

- 明治4年 世界商売往来(橋瓜貫一)
- 明治5年 続篇世界商売往来(松園先生著)
- 明治6年 万国商売往来(横田重登), 万国新商売往来(松山半山), ^{頭書挿絵} 万国通商往来(著者不詳 5年8月御免 6年1月刻成ル), 続々世界商売往来(著者不詳 東京青山堂発兌), 銀行簿記精法(朝野泰昆 大蔵省版), 帳合之法(福沢諭吉訳)
- 明治8年 ^{馬耳蘇氏} 記簿法(小林儀秀訳)
- 明治9年 馬耳蘇氏復式記簿法(同前訳), 簿記法独学(栗原立一), 商法小学(工藤助作訳)
- 明治10年 商家必用一記簿法, 記簿教則附録(加藤斌), 商用簿記初歩(W.C.ホイットニー)
- 明治11年 小学記簿法(遠藤宗義編 山梨師範学校版), 小学記簿法(田鎖綱紀), ^{英和} 簿記法字類 帳合のしるべ(田鎖綱紀), 簿記学例題(森島修太郎訳), ^{三 菱} 簿記学階梯(森下岩楠, 森島商業学校)

修太郎合考)

- 明治12年 小学 經濟談 (中村護著述 関新吾校訂), 銀行簿記例題 (銀行学伝習所編), 小学商家読本 (小林長雄編), 小学商家読本 (松本英忠), 簿記法初步, 小学簿記法教授読本 (上野栄三郎編), 市街 商業入門 (甲斐織衛, 三原国一郎纂輯), 簿記法大意問答 (佐藤永孝), 簿記学独学び (秋元晋記述), 簿記学捷径 (井田忠信訳), 人民必携簿記提要 (山田十畝著述), 銀行簿記教授本 (高木貞作), 官用簿記例題 (松井雄利), 簿記学精理 (竹田等訳)
- 明治13年 小学商家読本 (小林長雄編), 小学商業書 (塚原苔園一版權免許), 簿記法初步解式 (三輪振次郎編), 簿記学論理 (井田忠信), 商家 必携手形之心得 (田口卯吉編)
- 明治14年 新撰実用商業算 (山本達雄, 山岡清直共著 箕島勝人訳), 商業小学 (前田寅七編), 銀行例題式四 (銀行局編), 簿記独案内附例題 (吉村一郎編), 簿記法原理 (図師民嘉訳), 商売往来読本 (長崎県師範学校編)
- 明治15年 商業小学 (片山平三郎), 商用簿記学 (竹田等編), 簿記学 (倉西松次郎), 農工商小学入門一商業編 (那須純一郎)
- 明治16年 小学職業予習一第三冊商業之部 (西村義民編), 改正 商業階梯 (著者不明)
- 明治17年 官用簿記例題 (宮武嘉平二), 小学商業篇 (坪井仙治郎), 民間簿記学 (森下岩楠, 森島修太郎共著)
- 明治18年 簿記独案内 (吉村一郎編)
- 明治19年 初等商業書 (三原国一郎), 商業算術書 (森下岩楠訳), 簿記学独習 (青柳源十郎訳)
- 備考 以上主として都市紀要 (東京都) 商業講習所 P.119~21 (簿記関係の著述), 筆者蔵本, 一部国立教育研究所蔵本その他で補充編す。